

32メートル余の絵巻物として遺されたラーゲリでの日々

絵巻

2023年1月16日発行

## シベリア抑留者の想い出

～満州での軍隊生活、そしてシベリア抑留での強制労働～

株式会社あさ出版(代表取締役:田賀井弘毅、所在地:東京都豊島区)は澤田 精之助:画と文/下山 礼子:編『絵巻 シベリア抑留者の想い出』を2023年1月16日(月)に刊行いたします。

## 30年間、ひとの目に触れることがなかった

満州で軍隊生活を送り、敗戦後シベリア抑留を体験した澤田精之助氏は、その経験を絵巻物として遺しました。家屋解体で発見されるまで30年間、その絵巻物は、ひとの目に触れることはありませんでした。

本書は、絵巻物を原典のまま書籍化。満州での軍隊生活からラーゲリ(シベリアの強制収容所)での日々が生々しく描かれています。また女優・劇作家の渡辺えり氏、京都相国寺専門道場住職 小林玄徳氏ほかの寄稿も収録されており、賛同者の声が、続々と寄せられています。

ラーゲリーでの過酷な日々は、今年、二宮和也氏主演の映画が公開されるなど、再び関心が向けられています。戦後77年、約60万人のシベリア抑留体験者の多くが亡くなり、さまざまな経験が風化しつつあるなか、戦争の悲惨さと過酷さを遺す貴重な史料価値がある1冊となっています。

## タイトル:絵巻 シベリア抑留者の想い出

～満州での軍隊生活、そしてシベリア抑留での強制労働～

ページ数:160ページ

画と文:澤田 精之助 編:下山 礼子

価格:1,980円(10%税込) 発行日:2023年1月16日

ISBN:978-4-86667-395-0

## 【目次】

はじめに 私たちはあの道を再び歩まない

第一章 夢多き学生時代から軍隊へ

第二章 厳しかった満州の軍隊

第三章 終戦からシベリアの抑留・強制労働

シベリア抑留についての解説・資料編

## 【プロフィール】

画と文:澤田精之助(さわだ・せいのすけ)

1921年、山形県村山市楯岡生まれ。楯岡町役場勤務を経て仙台逓信講習所入学。

1941年に徴兵、1942年に満州黒河省に下士官候補生として奉天第549通信教育隊に配属される。

1945年の敗戦後、シベリア抑留。シベリア鉄道でカラガンダ収容所に送致され炭鉱で働く。1948年、舞鶴に帰還後、山形県村山市村山郵便局に勤務。

復員後、書道を為し、1975年には第2回山形県総合書道展で最初の県知事賞を受賞。

『シベリア抑留者の想い出』の制作を継続し、1984年に完成させる。1985年没。

編者:下山礼子(しもやま・れいこ)

1950年、山形県村山市楯岡生まれ。澤田精之助の姪。10歳の時に父と観た映画『人間の条件』(小林正樹監督)に描かれた「戦争における人間性」に衝撃を受ける。学生時代には遠く離れたシベリア鉄道の旅に思いを馳せた。

2015年、澤田精之助作の絵巻物に出会い、シベリア抑留の史実に触れ、叔父と父からの大切なメッセージに気づく。

2019年、自宅(澤田精之助の生家に隣接)に「小さな小さな平和祈念館」を開設。

「命・戦争・平和」について語り継ぐ活動を続けている。



